

姨捨棚田通信

2020.10.11発行

長野県屋代高校附属中学校2年生 棚田班

●今泉忠明先生のお話をお聞きしました！

9月12日に「どんねんないきもの辞典」を監修された今泉忠明先生のお話をお聞きしました。棚田に生息しているバッタやカエル、アカハライモリや、棚田にいないモグラタネズミ、カヤネズミ、ニホンノウサギなどの生き物のお話をお聞きしました。それぞれの動物の生態やどんねんな部分、名前の由来などを聞かせていただきました。機会をつくって探してみたいです。今泉先生にはとても興味深いお話を分かりやすく教えてもらいました。ありがとうございました！



●棚田で行っている活動について

《竹班》

姨捨でとった竹を使い、子供から大人まで楽しめるようなおもちゃ作りをしています。水鉄砲なども作っていますが、主に竹串や輪ゴムを材料にした弓矢、棚田の水流を利用したししおどしを製作しています。最終的な目標は千曲市に観光客を呼ぶことで、そのためには地域の人に満足してもらえることも不可欠だと、竹班は考えています。左下の写真は、実際に棚田で完成した竹弓を使ってみているところです。弓矢の矢もあたっても痛くないように加工してあるので、安全です。怪我の心配をせずに、小さい子から楽しめます！



《棚DASH》

棚DASHチームでは、傾斜が激しい姨捨の坂を走る計画を立てています。本日10月1日(日)にトレンディエンジェルさんやガンバレルーヤさんも参加してもらい、棚DASHチームのメンバーも含め、坂をダッシュする予定です。棚DASHの目的は2つあります。一つ目は棚田を走って姨捨棚田を知ってもらうためです。姨捨の素晴らしい景観や、棚田自体にも興味を持ってほしいと考えています。二つ目は運動の機会にしてもらうためです。現代社会では交通網が発達しており、徒歩でどこかに出かけることは少なくなっています。そこで健康な生活をおくるため、棚DASHを活用してほしいと思っています。



生き物紹介

・ヨウシュヤマゴボウ

この、一見ブドウのような植物は、ヨウシュヤマゴボウと言います。きれいで美味しそうですね！でも、本当は毒性があって危険です。食べると最悪の場合、呼吸障害や心臓麻痺が起こる可能性があり、実際に死亡例もあるようです。特に、根や種は毒性がとて強いので、見つけても絶対に食べないようにしてください！食用には向きませんが、実を潰すときれいな紫色の汁が出てきます。これを使って、染め物などもできるそうです。染め物は難しいですが、潰して遊ぶと楽しいです。(私は、小さい頃友達とこれで魔法の薬ごっこをしていました)ただ、毒があるので、遊んだあとは口などを触らず、手を洗いましょう。



・アカハライモリ



この動物は田んぼでよく見かけることができます。お腹が赤いので、名前は『アカハライモリ』といます。見た目のままの名前ですね。姨捨の棚田でも頻繁に見ることができます。捕まえることは容易ですが、夢中になって追いかけて、稲を潰さないように注意してください。また、今回の写真では、お腹がきれいに赤いですが、本来黒の斑点があるものが多く、全身が赤い個体や、全身が黒い個体もいるそうです。もはや『アカハラ』じゃなくなっていますよね。日本ではこれが一般的なイモリとして知られていて、『ニホンイモリ』と言う別名もあります。しかし、前述のように地方によって個体差もあるそうです。また、再生能力も高いため、しっぽが切れても骨まで再生するばかりか、足や目のレンズまで再生することができます。こんな事ができる動物は、自然界でもほとんどいません。しかし、だからといって、不必要に乱暴に扱ってはいけません。棚田だけでなく、水田、川、池、水辺の林や水気の多い枯れ草の下などにも生息しているので、ぜひ探してみてください。

参考文献アカハライモリ・ヨウシュヤマゴボウ-Wikipedia



草取りの様子



実った稲穂



はぜかけの準備